

登山月報

2010年新年を迎えて	1
自然保護全国委員総会報告	2
森谷さん、若月さん追悼	4
中高年安全登山指導者講習会西部地区	5
キルギス登山ガイド・ポーター協会奮闘記	6
新連載 Mountain World 第14回	8
JMA	9
寄贈図書	11

2010年『新年を迎えて』

日本山岳協会 副会長 中島 龍

新年おめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

今年、日本山岳協会が昭和35年(1960年)4月に誕生してちょうど50周年に当たる記念すべき年を迎えました。皆様と慶びを分かち合い、共に協会の発展に努力してまいりたいと思います。

戦後の昭和27年に(株)日本山岳会が日本体育協会(日体協)の要請により加盟、その後各地に支部が出来、国体登山などを運営されてきました。その後、これらと平行して各都道府県に山岳連盟が結成され、それが全国的になるにつれて全日本山岳連盟(全岳連)が誕生し、(株)日本山岳会と全岳連の協議の結果、日本山岳協会の名称で協力体制が出来、昭和35年4月に日体協に加盟・発足に至ったという歴史があります。

そして、今日まで様々な時代を経て50年、これまでの先人・諸先輩をはじめ数多くの関係者の方々のご尽力に心から敬意を表します。

今年度は50周年記念事業として、式典・祝賀会、様々な記念事業(講演会、展示会、記念登山、記念大会等)、記念誌の発行等が予定されており、特に式典・祝賀会、記念事業にはぜひ多くの方々のご参加を期待いたして居ります。

我田引水の話で恐縮ですが、私の所属している兵庫県では、六甲山全山縦走大会(神戸市、六甲山全山縦走市民の会共催)が、毎年、11月に2回開催されています。昨年の参加者は総勢3,970名で、地域で見ますと北海道から熊本まで、全国各地から参加され、従来は40代以上が多かったのが、一昨年から30代も増加が目立つようになり、年代別で見ますと30代が928名でトップ、次いで40代が908名で2位、3位50代の861名となってきています。30歳代以下の方々、初参加の人が多く、無事ゴールに辿りついた時には感極まって涙される方

もおられます。この大会は須磨・宝塚間56kmを朝から晩までかかって歩く相当に厳しい大会です。それでも挑戦する参加の内30代以下が増えてきたことは、我々にとって大変嬉しいことです。このことは、最近言われる若い人たちの登山離れとは逆に、自分の体力の限界への挑戦、感動体験の希求など、何かが変わりつつあるという新たな予感がしています。

また、兵庫県山岳連盟では、今年の新たな事業として、「(仮称)兵庫県山岳連盟の森」の整備に着手することにしています。これは、地球の温暖化対策の一環として、神戸の都市環境整備でもあり、六甲山地の自然環境保護(保全)の象徴的な活動として、他の団体と共に推進していくことにしています。森づくりは住吉川沿いの東側にある小高い十文字山(標高238m)の登山を対象とし、今後様々な作業によって森の整備をして行くこととしています。そしてここでは、1. 子ども対象の環境教育、2. 子ども対象の野営体験、3. 森作りを通して自然を知ること、4. 春・秋の自然観察とレクリエーションの実施など、誰でも利用することが出来ますが、主として子ども達の利用に供することによって、自然に親しむ機会を少しでも増やしたいとの思いからです。

昨年暮れの近畿地区山岳連盟総合会議の際、尾形事務局長の「目前に迫ってきている公益法人化への取り組みは、単に期限に合わせてやり遂げるというのでは無く、今後の日山協が新たに変わっていく絶好の機会と受け止め、関係者のご協力を得ながら、実行して行かなければならない」という力強い言葉に胸が熱くなる思いがしました。

年頭にあたり、50周年を契機に、全国の多くの登山者のため新たな理念の下に、日本を代表する登山団体として、国内外の関係各団体と手を携えて参りたいと念願しております。

自然保護全国委員総会（愛媛県大会）報告

11月7～8日、平成21年度日山協自然保護委員総会が愛媛県山岳連盟主管(後援:愛媛県・新居浜市・住友金属鉱山㈱・住友林業㈱)にて、新居浜市(会場:銅山の里・自然の家、エクスカージョン:銅山峰一帯)で開催され、全国22岳連(協会)から約120名が参加、「自然界の天然更新を別子銅山跡地で見守る。」を大会テーマに、山岳環境の諸問題につき情報交流が行われたので報告する。

(本稿は紙面の都合で一部短縮しております。全文についてご覧になるには、次のURLから閲覧ください:

<http://www.jma-sangaku.org/tozan/conservation/index.html>)

〔大会第1日 開会・議事・基調講演〕

総会は、新田愛媛岳連理事長の司会により、有田副会長の宣言で開会が行われ、挨拶に続いて議事・基調講演が行われた。挨拶の要旨は次の通り。

〔開会あいさつ要旨〕

田中日山協会会長主催者挨拶:失われつつある自然を後世に伝えていくために、自然保護に関わる様々な活動に依るところが大であるので、総会での有意義な意見交換を期待する。

長谷川日山協自然保護委員長挨拶:新任ではあるが、自然保護委員の全国皆様の一層の協力を得て邁進したい。

白石愛媛岳連会長主催者挨拶:会場の背後に迫る銅山峰は東洋のマチュピチュとも呼ばれる別子銅山跡地を擁し、標高1500m足らずの所にツガザクラが群生するなど日本アルプスに匹敵する自然が残るところ。ぜひご覧を頂きたい。

佐々木市長来賓挨拶:銅山の街として栄えた当地は、煙害や製錬用木炭需要により自然の荒廃を招いたが、精錬所の移設や植林活動等自然回復を目指した先人の努力や閉山後も続く回復活動によりその多くを取り戻しつつある。当市にご遠来を歓迎し、意義ある大会となることを祈念します。

14時10分、若月東兒前委員長の発語で徳永邦光常任委員を選出、議事に入った。

〔議事要約〕

議事は常任委員会事業報告、各都道府県山岳連盟(協会)から活動状況報告、大会テーマの確認など予定議案通りを実施した。

《常任委員会事業報告等》

常任委員会では、16名の委員による定例会議開

催しており、指導員規程の見直しや指導員台帳の再整理、自然環境に関する各種団体行事への参加、特に山岳団体自然環境連絡会(6団体)との連携を図るなどし、山岳環境保全に取り組んできた。また、カタクリの群生地新潟県角田山でのオーバーユースの実態やその保護活動の視察(4月実施)、および南ア北岳でのキタダケソウの食害状況の調査(7月実施)14名で行った。さらに、山岳団体自然環境連絡会では、昨今急激に増えているトレイルランに対する基本的スタンスおよび前述の「山の鳥獣目撃レポート」への活動を実施してきた。一方、自然保護指導員について登録ゼロ県の撲滅を目指して推薦・登録のプロセスにつき説明があり、委員と岳連の有機的關係を深め山岳環境を守る活動を強化しようとの提言があった。

《各連盟(協会)から活動状況報告》

(岐阜)夜叉ヶ池登山道や国有林のクリーン作戦、ワシ・タカのレンジャー活動など実施。(栃木)日光清掃登山、外来植物(オオハンゴンソウ)の除去、那須クリーンキャンペーン。(茨城)県北・県南での清掃登山、地元FMの放送番組を通じての自然保護など紹介。(群馬)水場の水質調査や観察会を実施、熊穴避難小屋のトイレ設置促進の活動。(埼玉)自然観察会、県立自然公園での清掃活動、名和倉山の植林活動、(千葉)例年の環境保全活動を継続。(東京)啓もう・調査・研修・指導育成の4部門の委員会構成にて観察会等の事業を分担、行政連携や助成金取得にて継続的な活動を展開。(神奈川)官民共同による山岳美化活動や森林づくり、指導員との情報交換の必要性、清掃登山から植栽活動への活動転換。(長野)キヌガサソウやシラネアオイの盗掘防止パトロールや清掃活動など独自活動を実施。(静岡)県高山植物保護指導員等複数の指導員が活動、富士山や南アルプスのゴミ減量に取り組む、登山指導と事故対応に登山相談所を開設。(福井)荒島岳・夜叉ヶ池の自然復元、県民登山大会コースの整備に参加。(愛知)隣接三県による東海岳連自然保護懇話会の活動、他団体の自然保護活動への応援。(京都)次世代の育成を目指した観察会や清掃登山を実施、ヤマビルやシカ害等の山岳環境の現状や「京都一周トレイル」の紹介。(大阪)清掃登山やパトロールを実施、里山の自然を体感する生駒山系のパワースポットを巡るスタンプラリーに協力、小学生対

象の水性昆虫観察会を開催、自然の素晴らしさを伝える事業を継続。(兵庫) 自然観察ハイキング、六甲山系4市の自然生態系保全や森林整備、作業しながら自然環境保全の精神を養う活動を実践。(岡山) 清掃登山や指導員研修を継続的実施、グリーンシャワー公園の運営継続に対応を協議。(広島) 組織を「自然保護」から「自然環境保全」へ改称、清掃登山や登山道等の整備、委員の研修会を実施するとともに自然にやさしく売上金の一部を自然環境基金として寄贈する「山のおべんとう」を共同開発、全国草原シンポジウムに協力。(徳島) 剣山国定公園のパトロールを継続的に実施、シカ害防止のネット掛け作業を実施。(高知) 清掃登山や拡大するシカ害を伝える広報活動。(大分) 高体連と連携して年2・3回の清掃登山を実施。(愛媛) 行政と関わりながら四国登山大会を通じて強化された近県との連携を通じて自然環境保全を図りたいとした。

これら一連の報告に対する討議・質疑については、時間の関係で懇親会に持ち越し割愛されたが、今後継続的に検討を重ねていかなければならない各岳連共有の問題提起もあり、また各地の山岳環境の「現状」を伝え、また知ることが、参加した委員はじめ全国の自然保護指導員の今後の山岳環境保全活動を進める大きな一歩であることから、非常に有意義な報告であった。

《大会テーマの採択》

大会テーマ『自然界の天然更新を別子銅山跡地に見る』の提案理由について、「自然保護の原点は自然観察に尽き、亜硫酸ガスや薪炭用に伐採され荒廃した銅山峰一帯が自然治癒力や植林をもってどこまで回復したか、またそこは植物遷移の過程の観察にも最適な場であり、こうした自然界の天然更新の姿

ネパールに行くなら、 風の旅行社にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

KAZE

株式会社 風の旅行社

観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(JATA)正会員
総合旅行業務取扱管理者 原/小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F,0ビル 6F
TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハビスPLAZA3F
TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail info@kaze-travel.co.jp

を知ることによって人工的・自然的災害に対し適切な山岳環境保全措置を講じることができる」とし、拍手を以て全会の合意を確認した。

来年の自然保護総会開催は「新潟県」にお願いしたいとの長谷川日山協委員長の報告があり、総会は16時15分終了した。

《基調講演》

新居浜南高校情報科学部の生徒諸君による『別子銅山の環境問題と戦った先人たちの知恵に学ぶ』と題し、別子銅山跡の環境問題を観光資源に再生して街づくりに繋げてきた活動について発表が行われた。つづいて、「銅山峰ツガザクラ保護活動について」が愛媛岳連自然保護委員長今北氏から発表された。

〔第2日 現地視察〕

会場地の東平(とうなる)から銅山峰を越えて別子ダムへ至るコースで視察が行われた。前日解説頂いた近代化産業遺産が点在する鉱山跡に、先人の自然回復の苦労を偲んだ。銅山峰では冬越しの準備を進めるツガザクラ群落に会えたが、群落に浸出したコメツツジは想像以上で固有種保護の難しさを改めて痛感した。



「銅山の里・自然の家」にて

森谷重二郎さん追悼文

森谷都岳連前会長の ゆめ

東京都山岳連盟副会長 松元 邦夫

森谷さんは、チャキチャキの下町のおじさんで、思ったことを腹にためられない、まるで鯉轍のような人であった。思ったことを短刀直入に喋り、誤解もあるが、駆け引きが出来ない人、真直ぐな人、言い換えれば単純な人でもあった。そんな森谷さんに30年も付き合っ、尻拭いもずいぶんとした。

リーダーとしての森谷さんは、みこしの上に乗る、わっしょい わっしょいと、うちわを仰ぎ、担ぎ手をおだてては仕事をさせるタイプの人である。

そんな森谷さんが、「俺の一生のゆめ」を20数年かけて完結したのだ。それは……

20年くらい前であろうか、突然日山協の常務理事会で、「いったいこれはどういう意味ですか!」と瀧島さんと私は、チラシを見せられ叱咤された。二人とも初めて見るチラシで理解ができず、「わかりません」「そんな訳ないでしょう」。この時のやり取りで、始めて都岳連共済を二人とも知ったのであった。

この都岳連共済は、森谷さんを中心に都岳連の遭対委員会が登山者のための山岳保険と言う触れ込みで作ったものだった。確かに従来の日山協の共済より進んではいた。しかし都岳連理事会の機関決定もせずに、見切り発車をしてしまったのだ。

そんな森谷さんを、新宿の飲み屋に呼び出し、都岳連共済を直ちに中止してくれるように頼んだが、ガンとして聞き入れない、「登山者のために、今以上に良い保険を作ってなぜ悪い」「取り消せ」とやり取りしている最中、あの大きな体の森谷さんが、突然大泣きをしながら、我々二人に、「山岳保険が、俺の一生のゆめなんだ」と懇願され、とうとう瀧島さんと私は承諾してしまった。後は瀧島さんが日山協との盾になり、ずいぶんと苦労をしたはずだ。

森谷さんは、保険会社にもかなりの無理をいい、次から次と保険会社を変えた。とうとう日本の保険会社を一周してしまい、ついには外国の保険会社にも断られてしまい、もう頼むところがなくなってしまった。

さすがの森谷さんも困りはて、「今更日山協には戻れないし、どうしよう」と相談されても困るが、後は都岳連の独自共済しかない。都岳連の積立金、例えば60周年準備金などかき集め、やっと1000万、あとは足りなくなったら、耐久レース方式でやるしかない(第1回耐久レースの予算は5万円。後の数百万円は、故小林 勉元会長の借用書で加盟団員から借り入れた)で、運用を開始した。

森谷さんは結構気楽な考えの持ち主であり、周りがほっとけなく助けてあげたくなる性格の人だった。

私は副会長の立場から都岳連共済を進め、森谷さんを手伝っていたが、山岳保険にそれほど興味があるわけではなく、日山協共済で充分だと思っている。森谷さんの「俺の一生のゆめ」を手伝っただけだ。

個人的に、今でも都岳連は日山協の傘下にいるのだから、日山協の共済に入らなくてはならないと思っているが、今の都岳連の執行部は、日山協共済があることは知っているが、各岳連との関係、共済を日山協がする意味は良く分かっていないようだ。

順調に進んだ森谷さんの、「俺の一生のゆめ」も、金融庁の保険業法改正で、今の都岳連共済は終了する運命になった。森谷さんの「ゆめ」もこれで終わりかと思いきや、どうやら抜け道を見つけ、有志で資金を出し合い日本山岳救助機構合同会社(jRO)を設立した。当然ながら森谷重二郎社長である。また偶然ながら、重二郎のジロウが愛称jROになった。順調に成績を伸ばし、入会者も1万人を越えた。

このようにして、森谷重二郎前会長の、「山岳保険が、俺の一生のゆめなんだ」は完結したのだ。

合 掌

若月東兒さん追悼文

若月さんを偲んで

千葉県山岳連盟 宇野、関口

若月副会長は、ここ2年程体調を崩し、病院通いされておりましたが、それでも岳連の行事にはいつも出席し、回復が望まれておりました。

昨年の11月20日過ぎに奥様から再入院したとの連絡を受け、鴨川市内の病院に見舞いに伺ったのが最後になりました。

体の状態は以前に比べると弱った印象を受けましたが、来年は「ゆめ半島千葉国体」が開催されるので、元気な姿を見せて戴き、終わったらおいしいお酒を飲みましょと声をかけると、明るい返事をしてくれました。

それから1週間もしないうちに、悲しい知らせが届くとは思いませんでした。

千葉岳連としては、若月副会長の逝去により、ここ1年ほどの間に副会長を2名とインターハイ開催に尽力した若き人材1名を病で失うことになり、ゆめ半島千葉国体を目前に控えて大きな痛手です。

前回の若潮国体では、標高300mの房総丘陵を競技の舞台とし、踏査の要素を取り入れたため、コース調査、設定等に大変な苦労をしましたが、それから37年、常に岳連活動の中樞を担ってこれ、今後の岳連運営の中心を担って戴くはずでした。

日山協常務理事在任中は、山岳界の発展のため片道3時間近い道のりを通われました。

佐久間さんから引き継いだ自然保護委員長として、全国に自然保護の重要性を発信して、視察、啓蒙活動を展開しました。

発病後も療養の傍ら各地に赴いておられました。が、この負担も影響したかと悔やまれます。

また、事務局長在任の折には、個性豊かな集団の

中で冷静に業務をこなし、公益法人化への取り組みは退任後も特命業務として継続しておりました。

私達は頼りになる人材を失いましたが、今年の「ゆめ半島千葉国体」に総力を挙げて成功させ、この結末をもとに今後の岳連活動に臨みましょう。

これが何よりの供養であると信じます。

今後も私たち千葉岳連を見守っていて下さい。

ご冥福をお祈りいたします。

中・高齢安全登山指導者講習会西部地区を大分で開催 ～安全登山普及のため指導者として何を学ぶべきか～

平成21年度中・高齢登山指導者講習会（西部地区）が、11月6日（金）～8日（日）大分県山岳連盟主管のもと、7県23名の参加者により、「大分県立社会教育総合センター九重青少年の家」及び「くじゅう山」周辺で開催された。

くじゅう山系の山々は、なだらかな山容とアクセスの容易さなどから、年間を通じて登山者がとぎれることがない。特に、ミヤマキリシマの咲き揃う6月は、平日であっても駐車場は満杯、平治岳や北大船山などの人気ルートでは、長い行列もめずらしくない。こうした登山者の増加によって、トイレ不足などの問題も含め、大小様々な事故の報告も後を絶たない状況である。地元岳連会員としても事故のない安全登山を普及する役目を担う責任があり、今講習会が地元指導者の研修も兼ねてのものとなった。

さて、開講式では、国立登山研修所所長の長登 健氏、(株)日本山岳協会副会長 中島 龍氏のお二人にごあいさつをいただき3日間の講習会がスタートした。

講義Ⅰでは、「登山の運動生理学百科」（東京新聞出版局）の著者であり、三浦雄一郎氏のトレーニングサポーターもつとめる鹿屋体育大学の山本 正嘉先生に「中・高齢登山者の体力の弱点、トレーニングの盲点、その解決策」と題して講演いただいた。また、それに続く講義Ⅱでは、「中・高齢に必要な体力とそのテスト（実習）」ということで、体力テストも兼ねた実技講習を鹿屋体育大学の研究生にサポートして頂きながら実施した。

中・高齢登山者にみられる体力的な特徴は、バランス能力・脚筋力・腹筋力の低下などであり、中でも「脚力の弱さ」に起因するトラブルが多いことが指摘された。山本先生の考案された測定法と体力年齢を評価するための換算表により、参加した講習生からは、

「体力が衰えていることが、体力テストで思い知らされた！」という正直な感想が聞かれた。また、登山者のスポーツ障害の多くが、腰痛や膝の関節痛であることから、腰の柔軟性や膝関節の可動域のテストなども実施された。

登山者各人が目標とする山の「カルテ」を作成し、それに対応するトレーニング計画を作成したり、PDC Aサイクルにより自己啓発を図るために「QCシート」利用するなどの方法も提言されており、大変参考となる貴重な講義であった。

次の日は、貸切バスで登山口まで移動し、短時間ではあるが、一般コースと健脚コースに分かれての登山が実施された。幸い天候にも恵まれ、予定されたコースを時間内に歩くことができた。

以下がコースの概略と参考タイムである。

(1) 一般コース（歩行時間5時間）

大曲登山口9:00…諏蛾守10:00…三俣山山頂11:30…諏蛾守13:00…大曲登山口14:00

(2) 健脚コース（歩行時間5時間）

大曲登山口9:00…星生崎10:20…久住分かれ12:00…諏蛾守13:00…大曲登山口14:00

一般コースでは、渡部広善氏による「応急処置に関する講習」、健脚コースでは、コース途中の岩場での「トラバース実習」なども行われた。

登山後の講義Ⅲでは、「山岳遭難対策の現状と防止対策」と題して、大分県岳連会長である後藤利雄氏による講義が行われた。最近の大分県の遭難対策の現状報告がなされ、特にくじゅう山系での事故件数が群を抜いていることとその多くが県外からの登山者によるものであることが指摘された。また、道迷いを防止する観点から、地図の読み方の基本について、ご本人監修の地形図を用いながら、豊富な経験と知識に裏打ちされた実践的な内容を詳しく説明



上体起こしテスト（腹筋力）



脚筋力テスト（脚筋力÷自分の体重）



応急処置に関する講習



トラバース実習

された。

最後の講義Ⅳでは、「中高年登山の健康管理」と題して、スポーツドクターでもある緒方俊一医師による講義が行われた。緒方先生は、高校山岳部出身、大学ではワンダーフォーゲル部で活躍、多忙な中にありながら、山に登れる現役帯同ドクターとして山中のいかなる場所へでも急行できる気力と体力を維持しておられる素晴らしいドクターである。主に高校生の登山大会などで実際に起こった事故の経験から行動中の応急処置や携行すべき医薬品などについて説明され、中高年登山における健康管理についても経験に基づく講義内容で参加者には大変参考になった。

最終日は、「中高年登山に関する諸問題」について、「安全」を共通化テーマとし、「病気と怪我・体力」、「技術・道具」、「行動・事故対応」の3分科会に分かれ

研究討議がなされた。

第1分科会では、目的意識をもったトレーニングの重要性や緊急時の対策について論議がなされた。

第2分科会では、道迷い時の位置確認のためコンパスと地図の用い方やGPSの積極的な活用法。

また、ストック使用についてダブルストックの是非について両方の意見を聞くことができた。

第3分科会では、リーダーの的確な指示（休憩時の水分・栄養補給）が大切であること。また、パーティー行動時の声かけによるパーティー内の連携づくりについても大切であることが確認された。

最後に閉講式で、今回の参加者の中で最高齢でありながら、アコンカグア登頂を含め豊富な登山経験を有する大分の星子貞夫氏に国立登山研修所の高嶋氏より修了証が手渡され、無事に3日間の講習会が終了した。（大分県山岳連盟 理事長 原 勇人）



キルギス 登山ガイド・ポーター協会奮闘記 第1回 協会の概要と課題

キルギス共和国イシククル州登山ガイド・ポーター協会
（独立行政法人 国際協力機構（JICA）より青年海外協力隊として派遣）

鈴木翔太

私は、現在、独立行政法人 国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊として、中央アジアのキルギス共和国（以下、「キルギス」）に派遣され、現地の登山ガイド・ポーター協会の組織運営向上や登山ガイド育成制度の改善等に取り組んでいる者です。

キルギスという国は日本ではあまり知られていませんが、中国の西隣に位置する、国土が日本の約半分の小さな国です。しかし、小さな国土にもかかわらず、7,000m級の山々を有する天山山脈や、琵琶湖の約9倍の大きさのイシククル湖等の非常に雄大な自然に恵まれています。また、「中央アジアのスイス」と呼ばれる



イシククル湖

こともありますが、

当地在住のスイス人が言うに、キルギスの山々の方がスケールが大きくスイスの山々よりも素晴らしいそうです。また、かつてはシルクロードの通り道でもあり、その昔、玄奘三蔵法師が立ち寄ったという遺跡もあり、文化的・歴史的にも非常に興味深い国です。

キルギスは多民族国家であり様々な民族が住んでいます。一番多いのはキルギス人です（約65%）。キルギス人は元々遊牧民族であり、移動式テントであるユルタ（パオ）に住んでいましたが、現在は一部の人々だけが夏季限定で遊牧生活を送っています。キルギス人の顔つきは日本人にそっくりで、赤ちゃんには蒙古斑もあることから、昔日本人とキルギス人は同一民族であり、魚の好きな人々が日本へ行き、肉の好きな人々がキルギスへ移住したという言い伝えをよく耳にします。



天山山脈

このような意外にも日本に近いキルギスにおいて、私は国内第3の都市であるカラコルという街の登山ガイド・ポーター協会に所属し、2009年11月から活動を開始しています。カラコルは人口約5万人の小ぢんまりした街で、キルギス側からハンテングリ（7,010m）を登る際には必ず通る街です。

イシククル州登山ガイド・ポーター協会は、その名の通り登山ガイドとポーターのための団体であり、彼らが活動しやすいような制度作りや、お客様によりよいガイドサービスを提供すること等を主な目的としています。2006年に設立され、現在は登山ガイド7名とポーター約100名、通訳やコックが登録しています。当協会に登録している登山ガイドは、全員カラコルにある3年間の登山ガイド学校を卒業した者で、理論と実習を通じて近辺の山々に精通しています。また、学校では英語の授業もあり、登山ガイドの仕事で使える実践的な英語能力も兼ね備えています。また、当協会のミッションのひとつとして、地域の人々に対して観光・環境教育を行うことも掲げており、将来的には、地域の住民や子どもたちを対象とした自然教室やクライミング教室を開催する予定です。

現在、協会が直面している課題としては大きく2つあり、「登山ガイド育成・認証システムの整備」と「知名度の向上」です。

現在のキルギスの登山ガイドは、一言で言うと「自称制」です。観光庁等の公的機関が登山ガイドの認定を行っているわけでもなく、誰でも登山ガイドを名乗ることができます。したがって、登山ガイドの質もまちまちであり、きちんと登山ガイド学校を卒業した人から、山や救命法に対する知識がほとんどない人まで様々です。

しかし、このような現状は長期的視野から見れば、デメリットが多いものと考えます。質の悪い登山ガイドの利用は経費を安く抑えられるという点では魅力的ですが、万が一事故が起きた際には、十分な訓練を積んだ登山ガイドでなければ適切な対応や救助は期待できませんし、またお客様にキルギスの自然

の魅力を十分に知って頂くには、キルギスの自然に精通した登山ガイドでなければできないでしょう。

また、登山ガイドがキルギスの魅力を伝えることに成功すれば、そのお客様はリピーターとして再訪する可能性もあり、他の人々に口コミで魅力を伝えて頂けるかもしれません。よって、まずは観光庁や他の登山ガイド協会等に働きかけ、登山ガイドを養成し定期的なトレーニングを提供する全国規模の学校及び登山ガイド認証制度を整備していく予定です。

もう一つの課題として、「知名度の向上」がありますが、登山やトレッキング、クライミングに興味のある方なら、一度訪れて頂ければ、大いに満足できることは間違いありません。夏（6～9月）には、天山山脈の懐の標高2,000m～5,000m辺りで雪を被った頂きや高山植物を眺めながらトレッキングや乗馬を楽しむことができますし、イシククル湖の湖岸をロードバイクで走ったり、天山山脈から流れ出る急流でラフティングをしたりするのも気持ちがいいでしょう。また、アルパインクライミング用のトポも発行されていますし、冬にはバックカントリースキーやアイスクライミングも楽しめます。

以上のように、フィールドとしては申し分のないキルギスを、世界の他の観光地と比較される中で、差別化しつつ効果的に魅力を伝えていく必要があります。まずは、日本の旅行代理店の方々や潜在的なお客様に対して、各種メディアやインターネット等を通じてキルギスの魅力をお伝えしていきたいと思えます。そのために、キルギスの観光庁、旅行代理店、他の登山ガイド協会、日本側関係者等と協力しつつ、活動を進めていく予定です。



●プロフィール● **すずき・しょうた**
◎1983年生まれ。国際基督教大学（ICU）ワ
ンダーフォーゲル部出身、東京ヤング・クライ
マーズ・クラブ（YCC）所属。大学卒業後、開
発途上国の人材育成を支援する財団法人に勤
務。2009年秋よりJICA青年海外協力隊として、中央アジ
ア・キルギス共和国のイシククル州登山ガイド・ポーター協会
に派遣されている。詳細・照会は協会のHP (<http://kyrgyz-tours.info/>)、またはメール (shota.suzuki@gmail.com) まで。

第14回 Mountain World

アイガー・ディレットィシマ

池田常道

「ディレットィシマ」といわれても現代クライマーにはピンとこないかも知れないが、かつてこのことは日本のアルピニズムを風靡した魔法の呪文であった。もともとは戦前の偉大なクライマー、エミリオ・コミチ（イタリア）が理想の登攀を語った「いつか私はひとつのルートを拓いて、頂上から一滴の水をおとしてやりたい。その水滴は私の作ったルートを落ちていくのだ」ということばに由来する。

しかし、これはあくまで理想論で、じっさいの岩壁では、ピトンやボルトを積極的に使った直登は第2登以降が容易になってしまうばかりでなく、打ち足される人工手段によってルートの荒廃を招く。という次第で、ヨーロッパでは1960年代初めに早くも衰退していった。ところが、わが国では、アルピニズムの新しい形式としておおいに喧伝され、のちまで生き残る。結果として、草付きまじりの小さな壁にまで直登ルートが拓かれることになった。アルプス体験の乏しい日本では、文献を頼りに思想を語る人が優勢だったことも大きかっただろう。

岩登り発展史のうえではそうでも、これがドリュ西壁やアイガー北壁のような、いやでも人の目を引く岩壁で行なわれるとなれば、話題性のうえでは申し分ない。ジョン・ハーリン（米）はドリュにスパーダイレクトを拓き、アイガーでは冬季ディレットィシマに挑んでみせた。

1969年の夏JECC隊は、アイガーでもっとも困難と目されるラインに目をつけ、ピトン、ボルト、固



ロベルト・ヤスパー（左）とロジェ・シェーリ

定ロープを駆使し、1ヶ月余を要してジャパニーズ・ディレットィシマ（VI、A2/A3）を完成させた。メンバーは加藤滝男、今井通子、天野博文、根岸知、久保進、加藤保男。その登り方に対しては賛否両論があったが、彼らはヒマラヤの壁を直登するための準備だったとも語っている。具体例としてバトゥラ南壁を挙げたが、その写真が皮肉にもバトゥラではなく、前衛のハチンダール・キッシュだったのは、情報のない当時としてはやむを得ないことだったかも知れない。

*

それはさておき、この日本ルートが昨年8月、初登攀から40年を経て初めてフリークライミングされた。開拓当時の評判は別として、赤い岩壁（Rote Fluh）から第2雪田へと直登するこのルートは、たしかにアイガーきっての難ルートにはちがいがなかった。冬季登攀が達成されても、ここをフリーで登る者はあらわれなかった。

ロベルト・ヤスパー（独）は2001年に一度フリー化を試みたが、落石で敗退していた。一方、ロジェ・シェーリとジーモン・アンタマッテンのスイス・ペアは2003年からフリーの試みを開始し、赤い岩壁のエイド部分をほぼ解決していた。

いったんは諦めていたヤスパーもこれを聞いて再び挑戦することに決め、昨夏いっぱい、シェーリと組んでトライを繰り返した。ちなみにアンタマッテンのほうはヒマラヤの壁に目標を定め、このトライには参加していない。

ヤスパーとシェーリは8月28日、いよいよレッドポイントに挑んだ。オリジナル・ルートのディフィカルト・クラックから別れて赤い岩壁の左側をたどる。古いボルトのプロテクションは怪しげで、核心部2ピッチは部分的に濡れていた。ヤスパーはここを3度目のトライで乗りきった。

赤い岩壁に登りきった2人は、悪天候を避けるためいったん登山鉄道の坑道まで退却。1日を過ぎてから再び登攀に取りかかった。この日は落石が激しく、ヤスパーのヘルメットが拳ほどの落石に直撃されるアクシデントもあった。

途中ビバークした2人は残るヘッドウォールからミックス帯へと抜け出し、91年にメタノイアを拓いたジェフ・ロウの残したザック（うまく凍り付いていたという）にビレイをとるなどして頂上に達した。最高グレードはF8a（5.13b）、M5と報告されている。



平成21年度12月（21年12月）度
常務理事会議事録

日時 12月9日(水) 17:30～21:00
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 田中会長、内藤副会長、
中島副会長、本木副会長、西内、
佐藤、高山、堀井、青木、尾形、
北山、相良、寺内、長谷川、谷
口各常務理事
委任 神崎副会長、仙石、永井
常務理事（18名中14名出席）

1. 専門委員会動静

11月常務理事会以降
（11月6日～12月8日）

〔報告〕

- (1)指導委員会 11月9日(水)
出席者10名
ア 登攀研修会の反省について
10/24(土)～25(日) 熊本県
イ 委員会事前研修会の記録につ
いて
ウ 平成22年度スポーツクライミ
ング上級指導員養成講習会につ
いて
福井県、東北地方での開催で検討
エ 平成21年度スポーツクライ
ミング上級指導員養成講習会に
ついて
残り分は、予定通り実施する。
オ 氷雪技術研修会
大 山 2/27(土)～28(日)
富士山 3/20(土)～22(日)
※実施要項修正後、各岳連へ送付。
カ 次回委員会事前研修会につ
いて
谷川岳 1/30(土)～31(日)
キ 指導者の登録・更新管理につ
いて
ク 懸垂下降用ロープの結び方
について
(2)海外委員会 11月10日(木)
出席者8名
ア 第23回海外登山女性懇談会
について
告知状況の報告（山溪・岳人・
朝日新聞・DM発送・労山海登
研での配布）
当日の役割について
資料作成（12/17、日山協事務局）

- イ 海外登山技術研究会について
日程：2月10日(水)夕方受付、11
日(木)昼解散。
内容の変更について：ウイン
タークライマーズミーティング
（2/6～8開催）に招請する
韓国クライマーに報告して貰う
ことで話を進めている。
登山隊報告は日山協海外奨励
金交付隊の3隊（キンヤンキッ
シュ、ハンター、スパンティーク）と韓国のスパンティーク隊。
ウ UAAA総会報告
役員改選が主な議題。会長国・
事務局長国がネパールから韓国
に移行。日本の理事国も労山から
日山協に移行。UAAAからアン
・ツェリン・シェルパ（NMA）
をUIAA名誉会員に推挙。
エ GIRIGIRIBOYSスパンティーク
隊がピオレドール・アジアに
ノミネートされた報告
オ ウインター・クライマーズ
ミーティングについて
2月6日～8日に長野県の米子
不動にて開催。
カ 50周年記念事業「海外登山
隊クロニクル・トークショー」
（JAC海外委員会との共催）の
協力について
(3)広報委員会 11月13日(金)
出席者5名
ア 登山月報12月号の内容(12頁)
イ HPリニューアルについて
(4)普及委員会 11月13日(金)
出席者5名
ア 「少年少女登山教室in立山」
開催内容、準備作業について
イ 平成22年度中高年安全登山
指導者講習会の準備作業につ
いて
(5)自然保護委員会 11月17日(火)
出席者13名
ア 平成21年度自然保護委員会
総会の報告
イ 平成22年度自然保護委員総
会の開催地候補について
新潟県で調整中
22年度総会は、創立50周年記念
事業として位置づけて開催したい
ウ トレイルランについて
引き続き実態調査を継続する
エ 野生鳥獣目撃プロジェクトに

- ついて
それぞれの団体が独自の調査を
進めることになり、日山協として
はカードを作成して協力を依頼。
(6)遭難対策委員会 11月25日(水)
出席者8名
ア 積雪期レスキュー講習会につ
いて
①講習日程について：1日目は雪
質観察、ビーコン使用法、支点
の作り方などの実技。2日目は
JANの五月女行徳講師による雪
崩の座学。
②講師の担当について：講義講師・
五月女行徳（JAN）、でがわあずさ（JAN）
クラス1：主任講師・渡邊（輝）、
講師・瀬藤
クラス2：主任講師・町田、
講師・大沼
③購入装備について：ビーコン、カ
ラビナ、銀マット、フリース、目
盛り付ブローブなどの購入検討。
イ UIAA登山委員会への派遣・
調査について
①UIAA登山委員会の報告
インド・ニューデリーで開催。
11月9日～14日にかけて青山
副委員長を派遣
②スティーブ・ロング氏講演会
日山協と労山の50周年記念講
演会として5月29日～6月6日の
日程で来日招請。講演会会場は、
東京、札幌、関西の3箇所を予定。
ウ トムラウシ事故のシンポジウ
ム開催について
日時：2月27日(土)
主催：日本山岳サーチ&レス
キュー研究機構
会場：神戸登山研修所附近の王
子公園の施設
※日山協と労山の共同開催とする。
(7)指導委員会 12月7日(月)
出席者14名
ア 臨時理事会報告
イ スポーツクライミング上級指
導員養成講習会（福岡）の報告
ウ 研修会・主任検定員養成につ
いて
大 山（2/27～28）
富士山（3/20～22）
エ 常任委員研修会について
谷川岳（1/30～31）
オ 国体の競技運営委員について

平成 21 年度「日本山岳協会山岳共済会」会員募集中！

1. 「山岳共済会」（入会費無料、年会費1000円）

※高校生及び18歳未満は年会費500円です。

- 山や自然が好きな人の相互扶助と自立をめざす仲間の集まり、それが山岳共済会です。
- 山岳共済会は安全登山をめざし、登山技術の向上や普及、遭難予防と対策など各種の事業を支援しております。
- 山岳共済会は日本の山岳遭難捜索保険の草分けです。4万4000人の会員を持つ最大級の山岳共済です。
- 団体傷害保険は山岳共済会が団体契約している保険です。山岳共済会員にならないと加入できません。

2. 団体傷害保険の種類（家を出てから帰るまで、日常の傷害事故も補償しています）

■ 団体傷害保険＜山岳登山コース＞

通常の登山からロープ、アイゼン、ピッケルを使用する登山まで幅広く補償しています。

傷害時の入・通院費用については、オプションの＜入院・通院保険＞に加入しないと補償されません。

■ 団体傷害保険＜軽登山コース＞

ハイキングや軽登山などロープ、アイゼン、ピッケルを使用しない場合の事故に対して補償されます。

■ 団体傷害保険＜山岳登山コース＞

保険金額	保険タイプ	1S	S	1B	B	1C	C	1E	E
死亡・後遺		100万円	100万円	159万円	159万円	235万円	238万円	500万円	500万円
遭難捜索		100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	500万円	500万円
入院(1日)		1,000円	—	1,000円	—	1,500円	—	2,500円	—
通院(1日)		600円	—	600円	—	900円	—	1,500円	—
賠償		1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
保険料		5,850円	3,560円	7,490円	5,200円	10,440円	7,000円	21,680円	15,950円

■ 団体傷害保険＜山岳登山コース・中途加入月別保険料＞（円単位）

開始月	1S	S	1B	B	1C	C	1E	E
4月	5,850	3,560	7,490	5,200	10,440	7,000	21,680	15,950
5月	5,360	3,260	6,870	4,770	9,570	6,420	19,870	14,620
6月	4,880	2,970	6,240	4,330	8,700	5,830	18,070	13,290
7月	4,390	2,670	5,620	3,900	7,830	5,250	16,260	11,960
8月	3,900	2,370	4,990	3,470	6,960	4,670	14,450	10,630
9月	3,410	2,080	4,370	3,030	6,090	4,080	12,650	9,300
10月	2,930	1,780	3,750	2,600	5,220	3,500	10,840	7,980
11月	2,440	1,480	3,120	2,170	4,350	2,920	9,030	6,650
12月	1,950	1,180	2,500	1,730	3,480	2,330	7,230	5,320
1月	1,460	890	1,870	1,300	2,610	1,750	5,420	3,990
2月	980	590	1,250	870	1,740	1,170	3,610	2,660
3月	490	300	630	430	870	580	1,810	1,330

■ 団体傷害保険＜軽登山コース＞

保険金額	保険タイプ	I	II
死亡・後遺		176万円	276万円
救援者費用		300万円	300万円
賠償		1億円	1億円
入院(1日)		2,000円	4,000円
通院(1日)		—	1,700円
保険料		2,000円	5,000円

■ ＜軽登山コース＞の注意

※軽登山コースの救援者費用は疾病の時には補償されませんのでご注意ください。

＜中途加入月別保険料＞（円単位）

開始月	I	II
4月	2,000	5,000
5月	1,830	4,580
6月	1,670	4,170
7月	1,500	3,750
8月	1,330	3,330
9月	1,170	2,920
10月	1,000	2,500
11月	830	2,080
12月	670	1,670
1月	500	1,250
2月	330	830
3月	170	420

■ ＜海外山岳コース＞

契約基本タイプ

死亡・後遺 100万円
遭難・捜索 500万円
個人賠償 1億円

保険料は対象の山岳、日数により個別に見積りすることになりましたので山岳共済事務センターにお問合せ・申込をお願いします。

■ 保険料の例

保険期間9日迄3,910円
30日迄7,300円

3. 団体傷害保険加入方法（継続会員ならびに団体申込会員）

- 「共済会費＋団体傷害保険保険料」を払い込んでください。

（例）団体傷害保険1Cコースに6月から加入する場合

共済会費＋団体傷害保険保険料（1,000円＋8,700円＝9,700円）を払い込んでください。

- 共済会新規加入者は先に共済会入会申込（入会費無料）をし、入会受付確認後上記手続きをお願いします。

事務受託：日本山岳協会山岳共済事務センター

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707 月～金 10:00～17:00（土・日・祭日除く）

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397 Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

カ スポーツクライミング指導員
養成事業の精算について

(8)海外委員会 12月8日(火)
出席者10名

ア 第23回海外登山女性懇談会
の準備について

事前申込者：83名、当日参加
者の対応について

当日の資料作りについて

イ 平成21年度海外登山奨励金
交付登山隊について

応募隊は以下の3隊だったため、
選考会は開かず書面審査で決定。

・ランタンリルン峰登山隊2010
(馬目弘仁ほか1名) 未踏の東
壁をアルパインスタイルで初登
攀を狙う。

・GIRIGIRIBOYSラトックI峰登
山隊2010(佐藤裕介ほか2名)
未踏の北壁をアルパインスタイル
で初登攀を狙う。

・ギリギリボーイズ・富士山八合
目太子館ガイドアラスカ登山隊
2010(天野和明ほか1名) ア
ラスカ・ハンター北壁ムーンプ
ラワー・バットレスのオールフ
リーでの登攀。フォーレイカー
・インフィニトスパー、デナリ南
壁ライトトラベラーの登攀。

ウ BMC国際シークリフ・クラ
イミング・ミート2010の派遣
候補者について

期間：2010年5月9日～16日

申込締切：2010年1月22日

※北山選手強化委員長と調整中

エ 海外登山技術研究会について
2月10日(木)～11日(木)

国立オリンピック青少年センター

(9)競技委員会
12月8日(火) 出席者11名

ア 創立50周年記念事業・国際
ブラインド・クライミング大会
の開催について

期日：2010年12月4日(土)～
5日(日)(予定)

会場：習志野市東部体育館

2. その他の重要事項

(11月6日～12月8日)

[報告]

(1)山岳共済保険打合わせ

11月6日(金)

於：日山協事務局 三井住友海
上火災保険、瀬田工業、尾形常
務理事、松隈事務局員

(2)平成21年度中高年安全登山指
導者講習会(西部地区)

11月6日(金)～8日(日)

於：大分県九重青少年の家及び
九重山系 中島副会長

(3)平成21年度自然保護委員総会

11月7日(土)～8日(日)

於：愛媛県新居浜市 田中会長、
長谷川常務理事

(4)平成21年度テクニカルフォー
ラム 11月9日(月)

於：味の素ナショナルトレー
ニングセンター 中川事務局員

(5)山岳スキー競技打合わせ

11月10日(火)

於：長野県桐池高原
尾形常務理事、笹生常任委員

(6)U I A A登山委員会

11月11日(水)～13日(金)

於：インド・ニューデリー
青山遭対委副委員長

(7)平成21年度臨時理事会

11月15日(日)

於：ティーズ渋谷アジアビル
田中会長ほか各理事29名

(8)U I A A医科学委員会

11月15日(日)～16日(月)

於：ネパール・カトマンズ
堀井常務理事

(9)第6回山岳スキー競技大会実行
委員会 11月17日(火)

於：長野県桐池高原 本木副会
長、笹生、佐伯常任委員

(10)芳山との50周年記念事業打合
わせ 11月19日(木)

於：芳山事務所 尾形常務理事

(11)携帯電話での登山届システムの
打合わせ 11月19日(木)

於：日山協事務局 尾形常務理
事、廣川常任委員、中川・松隈
事務局員、アンリミテッド社・
長妻部長

(12)第6回スポーツと環境担当者会議
11月20日(金)

於：味の素ナショナルトレー
ニングセンター 長谷川常務理事、
松隈事務局員

(13)平成22年度スポーツ振興くじ助
成対象事業説明会 11月20日(金)

於：国立競技場 中川事務局員

(14)ボルダリング・ジャパンカップ2009
11月21日(土)～22日(日)

於：埼玉県深谷市 高山、北山、
寺内常務理事

(15)山岳共済保険打合わせ

11月26日(木)

於：日山協事務局 尾形常務理
事、松隈事務局員、三井住友海
上火災保険・藤岡

(16)李仁禎・大韓山岳連盟会長
(UAAA会長)来局 11月26日(木)

(17)李仁禎・大韓山岳連盟会長を囲
む会 11月26日(木)

於：市ヶ谷「鯨の家」 田中会長、
神崎・本木副会長、青木、尾形
常務理事

(18)岸記念体育会館空調料金説明会
11月27日(金)

於：岸記念体育会館

秋山事務局員

(19)山岳共済保険打合わせ

12月4日(金)

於：岸記念体育会館 尾形常務
理事、松隈事務局員、三井住友

寄贈図書

● 雑 誌 ●

東京新聞出版局岳人 1月号
山と溪谷社 山と溪谷 1月号
ROCK&SNOW
中国登山協会 山野

● 会 報 ●

(財)健康体力づくり事業財団
(財)日本スポーツ振興センター
長野県山岳協会
横浜山岳会
(財)全日本ボウリング協会
もんたにゆ会
(財)大韓山岳連盟
(財)日本ゲートボール連合
日本ヒマラヤ協会

(財)国立公園協会
(財)日本武術太極拳連盟
山梨県山岳連盟
(財)国立公園協会
(財)日本体育協会
神奈川県山岳連盟
(財)日本スポーツ振興センター
(財)尾瀬保護財団
日本勤労者山岳連盟
(財)シマノ
名古屋山岳会

mont-bell
(財)日本山岳会
東京野歩路会
(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会
(財)日本ユースホステル協会
(財)全国高等学校体育連盟
信州大学山岳科学研究所
(財)大韓山岳連盟
大阪府山岳連盟
NPO富士山観測所をかつようする会

海上火災保険・藤岡、事務センター・瀬田

(20)日本勤労者山岳連盟忘年会
12月4日(金)

於：アルカディア市ヶ谷 田中
会長、尾形常務理事

(21)近畿地区山岳連盟総会
12月5日(土)～6日(日)

於：京都・比良山岳センター
中島副会長、尾形常務理事

(22)若月東児常務理事逝去(享年
65歳)12月7日(月)、通夜(8日)、
葬儀・告別式(10日)

於：鴨川第一法輪閣

3. 議事

- (1)平成21年11月常務理事会議事録の承認について(提案通り承認)
- (2)平成21年度臨時理事会議事録の承認について(4頁目、10字抹消の訂正で承認)
- (3)新春懇談会での功労者表彰候補者について
(顧問表彰を除き、8名の表彰者を承認)
- (4)懸案事項の審議日程について
(内藤副会長より資料説明があり、1月までに担当業務のスケジュールを記載するよう依頼された)
- (5)日本スポーツマスターズ実施競技意向調査について
(検討中として回答することを承認)
- (6)個人情報保護コンプライアンス・プログラム(CP)について
(尾形事務局長より資料の説明があり、提案通り承認。日山協のCPを各岳連にも周知する事を確認)
- (7)2009年度ミズノスポーツメントール賞の候補者推薦について

(該当事がある場合、1/7の常務理事会までに推薦することで承認)

(8)その他

- ・ 財政部から11月末の一般会計実績(国体補助事業)について補足説明がなされた。
- ・ 創立50周年記念行事の概算収支予算と記念事業として以下の事業の説明がなされた。
祝賀会のI部として基調講演会とシンポジウムを開催
祝賀会に合わせてUIAA自然保護委員会を招致開催
第1回ブラインド・クライミング世界選手権の開催(2010年12月4日～5日、習志野市東部体育館)

(9)報告事項

- ア 第6回山岳スキー競技大会について(提案通り承認)
- イ 山岳スキー競技の現状とISMF加盟問題について(加盟の方向で承認)
- ウ 第6回アイスクライミング・ジャパンカップについて(提案通り承認)
(山岳スキーとアイスクライミングの担当として寺内常務理事が指名された)
- エ 平成21年度海外登山奨励金交付隊について
(提案通りの3隊を承認)
- オ 千葉国体におけるルート・セッター派遣費用について
(ルート・セッター派遣費用に関する支給基準について引き続き検討する)
- カ 会長・副会長選考委員会の開催について
(委嘱した選考委員の説明と12

月19日に選考委員会を予定している事が報告された)

4. 役員等の派遣について

- (1)平成21年度第2回全国スポーツ指導者連絡会議 12月11日(金)
於：岸記念体育会館
鈴木(由) 常任員
- (2)平成21年第2回競技団体連絡会議兼競技者支援要員向けドーピング防止研修会 12月18日(金)
於：ミズノ(株)大阪本社
西原常任委員
- (3)平成21年度日山協競技委員会ブロック研修会
四国(愛媛)：1月23日(土)～24日(日)
関東(群馬)：1月30日(土)～31日(日)
近畿(京都)：2月6日(土)～7日(日)
東海(岐阜)：2月20日(土)～21日(日)
中国(鳥取)：2月20日(土)～21日(日)
北海道：2月20日(土)～21日(日)
九州(鹿児島)：3月6日(土)～7日(日)
※上記役員派遣については競技運営委員会に付託することで了承。
- (4)平成21年度アスレティックレーナー連絡会議 1月10日(日)
於：岸記念体育会館
中川事務局長
- (5)IFSC総会 2月27日(土)
於：インドネシア・バリ
小日向常任委員ほか1名については1月常務理事会までに確定。

5. 後援、協賛等の依頼について

なし

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認
富山 1名 (提案通り承認)

アウトドアスポーツ用 GPSレシーバー **ATLAS[®] ASG-1** 販売価格 14,800円(税込)

正確な位置情報があなたを助ける!

- 現在地の緯度・経度情報を表示
- 移動中の速度・高度・距離を表示
- 自動ログ機能搭載
移動ルートをパソコンに表示した地図(Google Maps[™])上で確認できる!

株式会社 コピテル 〒109-0923 東京都港区芝浦4-12-33
TEL 03-3769-2525 FAX 03-3769-2520
お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで
<https://atlas.yupiteru.co.jp>
※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに加入(無料)し、直接購入もできます。



50th Anniversary

JMA

山を愛し、自然を見つめ、
地球を考える。
これまでも
そしてこれからも
登山者と共に歩む日山協

登山月報 第490号

定価 100円(送料別)
予約年間1、200円送料共
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月一回15日発行)

発行日 平成22年1月15日
発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
岸記念体育会館内
社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395